

**総合科学系地域協働教育学部門の廣瀬淳一准教授らの研究成果が、
国際誌『PLOS ONE』に掲載されました**

総合科学系地域協働教育学部門の廣瀬淳一准教授及び高知工科大学の小谷浩示教授による「しあわせ」に関する研究成果が米国学術誌『PLOS ONE』に掲載され、令和4年2月25日（米国東部標準時間）に電子版が公開されました。

○ 概要

「好奇心と問いかけ」は他者との関係を築くトリガーであり、関係性を育むエンジンでもあります。他者との良好な関係を維持することが人間の「次世代への関心や行動（ジェネラティビティ）」及び幸福度を向上させると報告されていますが、これらと「好奇心と問いかけ」との関連性についてはほとんど知られていませんでした。

廣瀬准教授らは「好奇心と問いかけ」及び「異なる考え方や新しいものを受容する態度」を包括した概念として定義された「インクイジティブネス」に注目し、「ジェネラティビティ」の重要な決定要因であると仮説を立て、「インクイジティブネス」と認知的・非認知的・社会人口統計学的要因との関係性について検証しました。

日本人400人を対象にアンケートを実施し結果の分析を行ったところ、

- 1) 「ジェネラティビティ」を特徴づける上で「インクイジティブネス」が重要な役割を果たしている
- 2) 「ジェネラティビティ」の高さは幸福度の重要な決定要因であり、かつ「ジェネラティビティ」は「インクイジティブネス」と幸福度の媒介者としての役割を果たしている

ことが明らかになりました。

この結果は「好奇心と問いかけ」と「異なる考え方や新しいものを受容する態度」が世代間及び世代内のコミュニケーションを通じて、人間の幸福度を向上させる重要な役割を果たしていることを示唆しています。

先行研究では、「ジェネラティビティ」が世代間の文化や資源の移転を促進することからSDGs（持続可能な開発目標）の達成に寄与することが示されており、この点も踏まえ、本研究成果は、「好奇心と問いか

PRESS RELEASE

令和4年3月8日

け」及び「異なる考え方や新しいものを受容する態度」によって人々が幸福度を高めながら持続可能な開発の実現に貢献できることを示す統計的証拠となります。

廣瀬准教授は、一般社団法人しあわせ推進会議（高知市）と共同で子どもの幸福に関する研究を始めており、今後は家族、地域、学校等における子どもと大人の世代間交流と幸福度の関係を通じた子育て支援や次世代育成の取組への本研究成果の活用が期待されます。

是非、取材方よろしくお願ひ申し上げます。

○ 論文情報

<論文名> How does inquisitiveness matter for generativity and happiness?

<和訳> 「好奇心と問ひかけ、異なる考え方や新しいものを受容する態度（インクイジティブネス）」
は「次世代への関心」と幸福度にとって如何に重要な役割を果たすか？」

論文掲載URL : <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0264222>

○ 本件問ひ合わせについて

高知大学 教育研究部 総合科学系 地域協働教育学部門 准教授

安全・安心機構 男女共同参画推進室 室長

廣瀬 淳一

Mail : hirose-junichi@kochi-u.ac.jp

Tel : 088-888-8020